

第11回ブックシヨートアワード
20分映画脚本

『桜結び』

作・小鳥遊まり

あらすじ

乳癌で乳房を切除する事になった美桜は、術前に乳房の写真を残したいと、ネットで写真家・篠田由紀に依頼。しかし名前とは裏腹にまさかの男性だった。焦って断ると、彼は桜と女性をテーマに撮りたいから普通にモデルになってと言い、撮れた写真は来年ここで渡したいから、手術頑張れとエールを贈った。

登場人物

相原美桜^{みお}(25) 図書館司書

篠田由紀^{よしのり}(28) カメラマン

相原直子(52) 美桜の母親
医師

アピールポイント

桜で有名な神社で、男性写真家に写真を撮ってもらう末期癌の主人公。神社には三枚の桜の花びらに纏わるジnkクスがあった。来年の桜は見られないかもと覚悟した主人公に、その桜のジnkクスが奇跡を起こす。

脚本文字数

4800文字（尺にして凡そ二十分）

○奈良県桜井市立図書館・全景
桜の花びらが風に舞って飛んでくる。

○同・中

静かな館内――。

書架の間を数十冊の本が入ったカートを押しながら歩く相原美桜⁽²⁵⁾。

本の背表紙の請求番号と書架を確認しながら一冊ずつ本を棚に戻している。

綺麗な写真集の表紙にふと手を止める。

めくると、桜の花の風景写真が並ぶ。

カメラマンの名前の欄の篠田と言う苗字を見た途端、顔を苦痛に歪ませ、本を落とす美桜。

美桜「痛い：」

右の脇の辺りを押さえ、うずくまる美桜。

○済生会中和病院・概観

男の声「残念ですが、リンパ節にまで転移しております」

○同・診療室

外科医の永瀬守⁽⁴⁸⁾の深刻な表情。

シャーカステンに貼られたレントゲン

写真。

そこには房の映像、石灰化された白い部分が広範囲に目だつ
呆然と見つめる美桜。

美桜「薬で治せないんでしょうか！」

医師「残念ながら、抗癌剤治療による温存法は無理かと……他に転
移する前に切除する事をお勧めします」

美桜「(呆然)そんな……」

美桜、思わず胸に手を充て、体を小刻みに震わせる。

医師「でもご安心下さい。今は乳房の再建手術の技術が進んでおり
ます。殆ど元通りに形成する事ができますから」

美桜、虚空を見つめたまま。

○相原家・俯瞰（夜）

○同・リビング（夜）

ソファーに座る美桜の前で呆然としている相原直子(52)。

直子「乳…癌…:…?」

自分の右の乳房に触れる美桜。

美桜「もう、ここ切るしかないんだって」

美桜の手に涙が落ちる。

直子「何言ってるの！今は医学も進歩してるんよ、切らなくって
たって治療法は！」

首を横に振る美桜。

美桜「リンパにも転移してるらしいの。もうここまで来たら温存治療は無理だって…一日でも早く手術をするしか方法は無いって」

直子「そんな…:…」

愕然とする直子。

直子「何であんたが…:…何でそんな…:…」

嗚咽する直子。

美桜「…:…お風呂、入ってくる」

ふらふらと歩いて行く美桜。

○同・浴室（夜）

曇った鏡に上半身を写す美桜。

両腕で乳房を抱きしめ、肩を震わす。

浴室に美桜の嗚咽が響き渡る。

○同・美桜の部屋（深夜）

薄暗い部屋で、パソコンに向かう美桜。

画面には、ズラリと並ぶフォトスタジオの名前。

それを順番にクリックして行く美桜。

ふとその手が止まる。

（フラッシュインサート）

桜吹雪の写真と、下の篠田の苗字。

写真をクリックすると「フォトスタジオまほろば」のHP。
そして篠田由紀の名前。

コメント欄には出張撮影OKの文字。

美桜「……シノダユキ：女性カメラマン：」

美桜、連絡先のメールをクリックする。

○談山神社・俯瞰

「談山神社」と書かれた社名標。

満開の桜の中、沢山の観光客で賑わう

○同・西入山入り口受付前

桜色の着物姿で佇む美桜。

赤いシヨールが色鮮やか。

男の声「あの？ 相原美桜さんですか？」

振り返る美桜。

カメラバッグを背負い、カメラを手にした篠田由紀(28)が微笑んでいる。

美桜「(訝り)はい、そうですけど」

篠田「やっぱり。桜色の着物に赤いシヨール、メールに書いてた通りだから」

美桜「(訝り)まさかシノダユキさん？」

篠田「はい。あ、でもユキではなく、ヨシノリです」

美桜「(呆然)女性だとばかり」

篠田「(苦笑し)よく間違われます」

戸惑う美桜。

篠田「え？ まさか女性カメラマンを希望されてたとか？」

頷く美桜。

篠田「そうでしたか。どうしよう……今すぐは無理だけど、知り合いに優秀な女性カメラマンがいます。日にちを改めて代わりに
寄越しましょうか？」

美桜「……時間が無いんです。明日には私、入院するんです。入院して……手術を……」

篠田「手術……？」

美桜「(頷き)だからその前に撮りたかったんです。大切な記念写真

として」

篠田「だったら僕でも」

首を横に振る美桜。

篠田「女性カメラマンで無いと駄目な理由でも？」

シヨールで胸の辺りを隠す美桜。

美桜「ごめんなさい。折角来て頂いたのに」

篠田「それは気にしないで下さい。それより入院ってどこが悪いんですか？」

美桜「……」

篠田「あ、立ち入った事を。すいません」

美桜「いえ」

ハラハラと落ちてくる桜の花びらを手でギュッと掴む美桜。

美桜「実は私……癌なんです……」

篠田「！」

美桜「私、この桜が大好きで、毎年見に来てるんです。だから大好きなこの場所で、私が綺麗な時の写真を遺そうって」

篠田「僕はプロです。綺麗に撮ってあげますよ」

美桜「駄目なんです、塩田さんじゃ」

篠田「どう言うことですか？」

美桜「キャンセル料はちゃんと支払いますから。お幾らですか？」

篠田「……（目を伏せ）」

美桜「篠田さん？」

篠田「だったら、キャンセル料の代わりに、桜が一番綺麗な場所、

案内してくれませんか」

美桜「え？」

篠田「僕はプロカメラマンです。こんな素敵なお場所を撮らずに帰るなんて勿体無い。だから相原さんのガイド料で相殺と言う事でどうでしょうか？ それとペナルティとして」

美桜にカメラを向けて突然シャッターを切る篠田。

驚く美桜。

篠田「景色と一緒に貴方を撮影させてください。駄目なんて言わないでください」

思わず微笑み、頷く美桜。

○同・総社拝殿
写真を撮る篠田と、被写体の美桜。

○同・神廟拝所
バックには満開の桜と十三重塔が美しく聳え立つ。
美桜の姿と共にシャッターを切る篠田。

○同・楼門前
並んで手を併せ、拝む美桜と篠田。
篠田、祈りを終えてふと美桜を見る。
まだ拝み続けている美桜の真剣な横顔。
思わずシャッターを切る。

○同・拝殿の回廊
桜吹雪を見つめる美桜を撮る篠田。

篠田の声「ねえ聞いてもいいかな？」

美桜「はい？」

篠田「さっき何をお願いしたの？」

美桜「……また、この桜が見られますようになって」

少し照れたように俯く美桜の顔にシャッターを切る篠田。

美桜の声「篠田さんは？」

篠田「え？ 俺？ うーん、内緒」

無視してシャッターを切る篠田。

美桜、思わず篠田のてからカメラを取り上げる。

篠田「え！ ちょっ！」

美桜「教えてくれないと、ここから落とすしちゃう」

手摺りからカメラを落とすふりをする美桜。

篠田「アーツ！ 言う！ 言います！ 貴方の願いがきくと叶いますようにって！」

美桜「！」

呆然とする美桜の手からカメラを取り上げる篠田。

その瞬間篠田の指が美桜の手に触れる。

ドキッとして、思わず背を向ける美桜。

その鼻先に風で桜の花びらが飛んでくる。

両手で救うように掌を差し出す美桜。

美桜「知ってます？ この場所で桜の花びらを三枚同時に掌に乗せられたら願いが叶うって」

篠田「本当？」

美桜「(頷き)さくら結びって言うの」

篠田「さくら…結び」

欄干の上にある桜の花びらを三枚つまんで自分の掌に載せ、握り締める美桜。

美桜「こうやって三枚の花びらを載せたらその手をギュッと結ぶから、さくら結び」

篠田「へえ。俺もやってみよ」

両手を翳して必死に花びらを掌に載せようとする篠田。その真剣な表情に思わず吹き出す美桜。

篠田「え？ 何？」

美桜「嘘です！ 私だけのジンクス」
やられたと、一緒に笑う篠田。

再び掌で桜の花びらを追う美桜。
少し寂しげで切ないその横顔。

○石段・上

眼下に百四十段の長い石段が続く。
その先には赤い鳥居。

ゆつくりと階段を折り始める美桜。
が、突然胸の痛みに襲われ、転びそうになる。

慌てて美桜を背中から抱きとめる篠田。

篠田「ほら、気をつけないと」

美桜の背中が小さく震える。

篠田「相原さん？」

美桜「すいません、何でもありませんから」

笑顔を見せるが、美桜の目は今にも泣きそうで赤い。

篠田「……」

美桜「……一つ伺ってもいいですか？」

篠田「どうぞ」

美桜「死の段ご結婚は？」

篠田「残念ながらまだ」

美桜「彼女さんはいらっしゃいますよね？」

篠田「それも残念だけど募集中」

美桜「じゃあ、素敵な所に案内してあげます」

階段を撥ねるように降りて行く美桜。

○同・恋の道入り口前

赤い鳥居に「恋の道」の立て札。

その鳥居の先には細く長い緩やかな下り坂の道。

篠田「へえ恋の道か」

美桜「この先には恋神社とむすびの岩座があるんですよ」

篠田「恋神社？ むすびのいわくら？」

頷く美桜。

○同・恋神社

小さな社——

その前に佇む美桜と篠田。

美桜「ここには夫・藤原鎌足を愛し続けた鏡女王が奉られてるんです。その夫を思って詠んだ歌が『神なびの石瀬（いはせ）の杜の呼子鳥（よぶこどり）いたくな鳴きそ、我が恋まさる』……素敵ですよね」

篠田「あの……僕、そういう和歌とかに疎くて……すいません、歌の意味を教えてくださいませんか？」

申し訳なさそうに照れる篠田を見て、微笑む美桜。

美桜「石瀬の杜の呼子鳥よ、そんなに激しく鳴かないで。私の恋心が益々募りますって意味なんです。亡くなつた後も夫に恋をしてるって素敵ですよ。その彼女の想いがあのむすびの岩座にこめられて……」

社殿前に赤い組木に囲まれ、注連縄が掛けられた小ぶりの岩がある。

その岩に、風で運ばれてきた桜の花びらが、まるで薄化粧のように岩を薄桃色に染めていく。

美桜「こうやって祈るんです」

跪き、岩を優しく摩ると両手を合わせる美桜。

篠田も横に座り、同じように岩を摩る。

美桜「鏡女王が羨ましい……私は結婚どころか、もう一生恋すら」

篠田「え？」

突然泣き出す美桜。

○同・小高い丘

眼下に桜の景色。

並んで見下ろす美桜と篠田。

篠田「そうだったんだ……それで女性カメラマンを」

美桜「(頷き)この乳房が無くなる前の自分の綺麗な姿、どうしても

写真に撮っておきたくて……」

篠田「……」

美桜「でも今決めました、篠田さんなら構わない」

篠田「！」

美桜「……(真剣)」

篠田、美桜の手を取り、頷く。

篠田「写真ができたら直接君に渡すよ」

美桜「え？」

篠田「来年、この場所で」

美桜「でも私、生きてるかどうか」

篠田「生きてるさ！ 君は絶対死なない！ 来年の今日、またこの

談山神社で会おう。そうだ、あの拝殿の回廊がいい。僕は君が来るまで、朝からずっと待ってるから」

美桜「篠田さん」

ポケットから何かを取り出す篠田。

広げた掌には三枚の花びら。

美桜「！」

篠田「君のジnkスが本物になるように」

思わず胸が熱くなり、両手で顔を覆う美桜。

その背中を優しく抱きしめる篠田。

○青空を優雅に舞う二羽の鳥

○談山神社・拝殿の回廊

T・一年後――

回廊から身を乗り出し、桜の花びらを
必死に掌に集めている篠田。

その篠田の掌の上に舞い降りてきそうになった花びらを、横
から受け止める女性の掌が重なる。

篠田「振り返り！」

洋服姿の美桜が微笑んでいる。

美桜「今年も桜を見る事ができました」

篠田「笑顔で」この桜のジンクスが叶った

掌を拡げる、そこには三枚の花びら。

篠田「君に会えるようになって」

篠田、バックからファイルを取り出す。

篠田「約束の写真」

表紙を捲る美桜。

乳房を切除する前の胸の膨らみを、両腕で隠すようにして撮
られた、美桜のセミヌードの写真。

桜の花吹雪に包まれ、美しい。

その写真の下には歌が一首。

美桜「去年（こそ）の春、逢へりし君に、恋ひにてし、桜の花は、
迎へけらしも」

驚いて思わず篠田を見つめる美桜。

美桜「この歌の意味：解っていますか？」

篠田「はい。去年の春にお会いした貴方の事が恋しくて、桜の花が
咲いて迎えているようですって言う意味です」

美桜「私には意味がわかりません」

篠田「え？ だから意味は、去年の春に……」

美桜「（遮り）そうじゃなくて！ この歌をどうして私に？」

篠田「……」

美桜「（訝り）……からかってるんですか？」

篠田「（慌てて）違います！ 君に対する、今の僕の気持ちです！」

美桜「（呆然と）篠田さん……」

真剣な目で美桜を見つめる篠田。

美桜「私は、こんな体よ……手術は成功したけどいつ癌が再発する
か解らないの！ だから私は」

篠田、美桜の手を掴むと、その掌に何かを握らせる。
そつと掌を開く美桜。

瞬間、美桜の顔がパツと綻ぶ。

美桜「これって……」

頷き、微笑む篠田。

美桜の掌には三枚の桜の花びら。

見つめ合う二人――

風に舞う桜の花びらがそんな二人を優しく包み込む。

○同・恋神社

社殿前の赤い組木の中の注連縄が掛けられたむすびの岩座。
その岩にもふわふわと桜の花びらが降り掛かって――。

(了)